

# ONSA ニュース

No. 26-2

第 33 回みんなの暮らしと放射線展	1
第 60 回放射線科学研究会聴講記	3
平成 28 年度第 1 回見学会	
「大阪ガス 泉北製造所・ガス科学館」見学記	10
平成 28 年度第 2 回見学会のご案内	14
今後の研究会、シンポジウムの予定	16

一般社団法人 大阪ニュークリアサイエンス協会  
〒542-0081 大阪市中央区南船場 3-3-27  
TEL: 06-6282-3350, FAX: 06-6282-3351  
e-mail: onsa-ofc@nifty.com  
URL: <http://onsa.g.dg.dg.jp>  
発行: 平成 28 年 8 月

## 第 33 回みんなの暮らしと放射線展

第33回みんなの暮らしと放射線展は、8月5日（金）から7日（日）の3日間、大阪科学技術センターで開催された。これは子供たちに、放射線が暮らしの中の様々な分野で役立っていることやその性質を楽しく紹介し、放射線を身近に感じてもらうと共に、科学技術への興味を喚起する機会を提供することを目的とするもので、大阪府立大学地域連携研究機構及びONSAを含む9団体で構成される「みんなの暮らしと放射線」知識普及実行委員会が主催し、文部科学省や大阪府等の国公立機関の後援により、毎年夏に開催されている。

今年は昨年より半日増えて3日間で、連日晴天の猛暑日の中での開催であった。2日目の午前にはリオ・オリンピックの開会式が行われていたため、出足が心配されたが、影響は殆ど無かった。例年は大阪科学技術センターの入口の外に野外テントを張っての受付であったが、今年度は入口の中での受付に改善したため、担当の学生達の負担が大幅に軽減された。

放射線展では「暮らしの放射線探検隊!」、「放射線親子セミナー」及び「ハイスクール放射線サマースクール」の3つの催しが行われた。

暮らしの放射線探検隊!では、放射線探検ラリー、展示コーナー、放射線ビンゴ大会、科学工作教室、放射線測定体験ツアー及びわくわくサイエンスショーと盛りだくさんの内容で、参加者が各コーナーで自由に放射線について学ぶことができた。写真1は参加者で賑う展示コーナーの様子である。放射線ビンゴ大会では放射線に関連する事項を学びながらゲームを楽しむことができた。写真2は大阪科学技術館の名誉館



写真1 参加者で賑う展示コーナー

長「テクノくん」も参加して、ビンゴゲームを楽しんでいる様子である。

展示コーナーには展示ゾーンとして①放射線と光、②放射線ってなんだろう？③放射線をはかってみよう、④放射線をみよう！、⑤くらしの中の放射線、⑥農業に役立つ放射線、⑦医療に役立つ放射線、⑧工業に役立つ放射線及び⑨関西の原子力・放射線研究施設が、WSゾーンとしては①ステージと②工作教室が設置された。

放射線親子セミナーは、①おもしろサイエンスショー、②放射線ガイドツアー、掃除機による工作教室に用いる放射線源用チリ集めの見学、③放射線測定器を用いたフィールドワーク及び④霧箱工作と2時間半のコースである。写真3はフィールドワークとして靱公園での放射線測定の様子である。

大阪科学技術センターの地下で掃除機を用いて集めたチリを、霧箱の線源として放射線の軌跡を検出したことで、放射能がどこにでもあることが親子共々良く理解できたと思う。

ハイスクール放射線サマースクールには、大阪府立大学工業高等専門学校を含む8校が参加して、放射線について生徒自らが調べ、科学的に考えたことを学校対抗で発表した。その内容に対し、出場した高校生が質問し回答がなされた。かなり厳しい指摘もあった。

各発表に対して大阪府立大学の諸先生方が講評や今後の進展のためのアドバイスを与えた。最優秀賞を京都府立桃山高等学校が、審査委員特別賞を大阪府立大学工業高等専門学校と奈良学園高等学校が授賞した。京都府立桃山高等学校は3年連続の最優秀賞である。大阪府立大学の辻学長も参加し、全ての発表を聴講された。表



写真2 テクノくんも参加のビンゴゲーム



写真3 靱公園での放射線測定



写真4 表彰式の終了後、大阪府立大学の辻学長と参加者の記念撮影

---

彰式の後には各発表の内容が立派であるとの感想を述べられ、参加者全員との記念写真（写真4）に収まった。

今年のみんなのくらしと放射線展は参加者が大幅に増加した。イベントの内容は毎年進化している。大阪府立大学放射線研究センターのスタッフの皆さんの負担もかなりのものである。子供だけでなく大人も十分学び楽しめる。ONSAの会員の皆様もぜひ積極的に参加して頂きたい。